

提言書（素案）と提言書（案）の 変更箇所

提言書（素案）と提言書（案）の変更箇所

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
目次 <u>はじめに</u> 1 検討の前提となる事項 (1) 県立短期大学の設置目的等 (2) 県立短期大学の現状 (3) 県立短期大学を取り巻く状況 2 検討結果 (1) 時代の要請に対応した教育内容の更なる充実について (2) <u>学生の確保に向けた取組について</u> (3) <u>企業・大学等との連携や地域社会への一層の貢献について</u> (4) 独立行政法人化について <u>おわりに</u> <u>参考資料</u> ・ <u>魅力ある県立短期大学づくり検討委員会設置要綱</u> ・ <u>魅力ある県立短期大学づくり検討委員会委員名簿</u> ・ <u>魅力ある県立短期大学づくり検討委員会の検討経過</u>	目次 1 検討の前提となる事項 (1) 県立短期大学の設置目的等 (2) 県立短期大学の現状 (3) 県立短期大学を取り巻く状況 2 検討結果 (1) 時代の要請に対応した教育内容等の更なる充実について ア 教育内容等の見直し イ 定員等の見直し (2) 地域社会への一層の貢献について (3) 独立行政法人化について	新規追加 字句の削除 項目の削除 " 項目の追加 番号・項目名の修正 番号の修正 新規追加 新規追加
<u>はじめに</u> 鹿児島県立短期大学（以下「県立短期大学」という。）は、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな教養と職業又は實際生活に必要な能力を有する人材を育成し、もって地域社会の発展に寄与するため、設置されています。 また、県立短期大学は、入学者の9割以上が県内出身者であり、卒業生の就職先の概ね8割が県内であるなど、若年者の県内定着に大きく貢献しています。 一方、今後、少子化の更なる加速が見込まれる中、将来にわたって魅力ある県立短期大学をつくっていくことは重要な課題と認識していることから、鹿児島県においては、本年度「魅力ある県立短期大学づくり検討委員会」を設置し、短期大学であることを前提に、時代の要請に対応した教育内容の更なる充実などについて幅広く検討を行うこととしたところです。 本委員会においては、これまで、令和6年5月から5回にわたり意見の交換を重ねてまいりましたが、この度、次のとおり意見を集約し、提言書として取りまとめましたので、提出します。		新規追加

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
1 検討の前提となる事項 (1) 県立短期大学の設置目的等 （略） (2) 県立短期大学の現状 県立短期大学の現状は、次のとおりである。 ア 学科及び現員（令和6年4月1日現在） （略） イ 入学募集人員及び受験者数等 （略） ウ 入学者の出身地 （略） エ 卒業生の就職状況 （略） (3) 県立短期大学を取り巻く状況 ア 18歳人口の推計 （略） イ 高校出身者進路先（令和4年度3月卒業生） （略）	1 検討の前提となる事項 (1) 県立短期大学の設置目的等 （略） (2) 県立短期大学の現状 県立短期大学の現状は、次のとおりである。 ア 学科及び現員（令和6年4月1日現在） （略） イ 入学募集人員及び受験者数等 （略） ウ 入学者の出身地 （略） エ 卒業生の就職状況 （略） (3) 県立短期大学を取り巻く状況 ア 18歳人口の推計 （略） イ 高校出身者進路先（令和4年度3月卒業生） （略）	変更なし
2 検討結果 魅力ある県立短期大学づくりについて、県内産業界や高校生等への<u>アンケートの結果等</u>を踏まえ、以下のとおり検討を行った。 県において、今後の検討の参考としていただきたい。	2 検討結果 魅力ある県立短期大学づくりについて、県内産業界や高校生等への<u>アンケート等の結果</u>を踏まえ、以下のとおり検討を行った。 県において、今後の検討の参考としていただきたい。	字句の修正
(1) 時代の要請に対応した<u>教育内容</u>の更なる充実について	(1) 時代の要請に対応した<u>教育内容等</u>の更なる充実について	字句の修正
<u>ア リベラルアーツ教育の実践等</u> ○ 産業界等へのアンケートやヒアリングによると、短期大学生に対して、専門知識や資格よりも「コミュニケーション力」など人間としての資質を求める傾向が見られた。 ○ また、高校生へのアンケートによると、四年制大学・短期大学への進学後に身につけたい力・伸ばしたい力として、「実行力」や「主体性」、「創造力」、「課題発見力」といった回答が多く見られた。	<u>ア 教育内容等の見直し</u> <u>（ア）リベラルアーツ教育等の実践</u> ○ 産業界等へのアンケートやヒアリングによると、短期大学生に対して、専門知識や資格よりも「コミュニケーション力」など人間としての資質を求める傾向が見られた。 ○ また、高校生へのアンケートによると、四年制大学・短期大学への進学後に身につけたい力・伸ばしたい力として、「実行力」や「主体性」、「創造力」、「課題発見力」といった回答が多く見られた。	中項目の削除 項目の繰上げ・字句の修正

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
○ これらを踏まえ、「コミュニケーション力」や「実行力」、「主体性」といった人間としての資質を高めるための、アクティブ・ラーニングを取り入れた科目等の設定や、「創造力」や「課題発見力」を養う<u>素地となる</u>リベラルアーツ教育の<u>実践</u>について<u>更に</u>検討することが望ましい。 ○ 特に、教養科目においては、県立の短期大学としての役割を踏まえたうえで、郷土に関する学びを通して地域への愛着を育むようリベラルアーツ教育を実践し、<u>更に</u>充実させていくことが望ましい。	○ これらを踏まえ、「コミュニケーション力」や「実行力」、「主体性」といった人間としての資質を高めるための、アクティブ・ラーニングを取り入れた科目等の設定や、「創造力」や「課題発見力」を養うリベラルアーツ教育の<u>実践等</u>について検討することが望ましい。 ○ 特に、教養科目においては、県立の短期大学としての役割を踏まえたうえで、郷土に関する学びを通して地域への愛着を育むようリベラルアーツ教育を実践し、充実させていくことが望ましい。	文言の追加・字句の修正 文言の追加
<u>イ 文学科における教育内容の見直し</u> ○ 外国人労働者やインバウンドの増加等により、外国語による「コミュニケーション力」及び「情報を伝える力」に加え、産業界等においては、外国語を理解した上で、<u>外国人労働者に対して</u>「日本語教育<u>が</u>できる力」も、今後ますます重視されることが想定される。 ○ このことを踏まえ、文学科においては、「発信力」や「コミュニケーション力」を重視した教育内容の更なる充実を図るとともに、これらを対外的に示すため、「コミュニケーション」をキーワードとした学科名称等の見直しについても検討することが望ましい。	<u>（イ）文学科における教育内容の見直し</u> ○ 外国人労働者やインバウンドの増加等により、外国語による「コミュニケーション力」及び「情報を伝える力」に加え、産業界等においては、外国語を理解した上で「日本語教育<u>も</u>できる力」<u>が</u>、今後ますます重視されることが想定される。 ○ このことを踏まえ、文学科においては、「発信力」や「コミュニケーション力」を重視した教育内容の更なる充実を図るとともに、これらを対外的に示すため、「コミュニケーション」をキーワードとした学科名称等の見直しについても検討することが望ましい。	項目の繰上げ 文言の追加・字句の修正
	<u>（ウ）男子入学者の増加を目指した取組</u> ○ <u>県立短期大学は、昭和25年に男女共学化されたが、現在、在学生の約8割が女子学生であり、また、高校生へのアンケートによると、県立短期大学にどのような学科等があるか知っている女子生徒は約9パーセントで、男子生徒は約3パーセントであった。</u> ○ <u>他公立短期大学においては、県立短期大学の生活科学科（生活科学専攻）で学べる建築デザインについて、これに関連する居住環境コースを中心に男子入学者が増加傾向にあるといった例もあり、県立短期大学の学科・専攻においてどのような学びが得られるのか、より効果的に周知することにより、高校生全体の認知度向上ひいては男子学生の増加に繋がることも期待される。</u> ○ <u>効果的な周知において、ネーミングは重要な要素の一つであることから、県立短期大学の学科・専攻の名称の見直しも含め、認知度を高める方策について検討することが望ましい。</u>	記載箇所の変更 →(2) ア 高校生の認知度向上を図る取組へ

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
<u>ウ 鹿児島への愛着を育む教育の充実</u> ○ 本県の観光を始めとする地域振興に資する人材を育てるという観点からも、<u>企業、大学等と連携した取組</u>やフィールドワーク等により、鹿児島県の地理・歴史・文化などを学び、地域への愛着を育む教育を<u>更に</u>充実していくことが望ましい。	<u>（エ）鹿児島への愛着を育む教育の充実</u> ○ 本県の観光を始めとする地域振興に資する人材を育てるという観点からも、フィールドワーク等により、鹿児島県の地理・歴史・文化などを学び、地域への愛着を育む教育を充実していくことが望ましい。	項目の繰上げ 文言の追加
<u>エ デジタル化やA Iの時代に対応した教育の充実</u> ○ 小・中・高の教育においてデジタル化が進んでいることを踏まえ、県立短期大学においても、データサイエンスの教養科目を取り入れるなど教育内容の<u>更なる</u>充実につなげることが望ましい。 ○ A I等の技術を適切に扱うため、<u>A I等に関する教養や情報リテラシーについての教育を更に充実させるとともに、全学生を対象とした講演会等の開催など大学全体での取組を推進する</u>ことが望ましい。	<u>（オ）デジタル化やA Iの時代に対応した教育の充実</u> ○ 小・中・高の教育においてデジタル化が進んでいることを踏まえ、県立短期大学においても、データサイエンスの教養科目を取り入れるなど教育内容の充実につなげることが望ましい。 ○ A I等の技術を適切に扱うために、<u>教養や情報リテラシーについての教育も行う</u>ことが望ましい。	項目の繰上げ 文言の追加 字句の削除 文言の追加・修正
<u>オ リカレント教育の充実</u> ○ 県立短期大学は、県内の大学で唯一の第二部（夜間課程）を設けるとともに、科目等履修制度を導入しており、若い学生への教育だけでなく、社会人のリカレント教育や様々な世代の学び直しの場合として重要な役割を担っている。 ○ 産業界等へのアンケートによると、県立短期大学におけるリカレント教育について、コミュニケーションといった人間力やパソコン操作などのスキルの向上に関する教育を希望する意見が見られたことから、これらのニーズを踏まえたリカレント教育を提供していくことが望ましい。 ○ また、リカレント教育をより充実したものとするために、<u>企業等との連携やサテライト教室の設置、長期履修制度の導入などについて検討を行う</u>など、社会人のニーズを踏まえた、履修しやすい環境整備に努めることが望ましい。	<u>（カ）リカレント教育の充実</u> ○ 県立短期大学は、県内の大学で唯一の第二部（夜間課程）を設けるとともに、科目等履修制度を導入しており、若い学生への教育だけでなく、社会人のリカレント教育や様々な世代の学び直しの場合として重要な役割を担っている。 ○ 産業界等へのアンケートによると、県立短期大学におけるリカレント教育について、コミュニケーションといった人間力やパソコン操作などのスキルの向上に関する教育を希望する意見が見られたことから、これらのニーズを踏まえたリカレント教育を提供していくことが望ましい。 ○ また、リカレント教育をより充実したものとするために、<u>産業界等との連携やサテライトエリアの設置、長期履修制度の導入などについて検討を行う</u>など、社会人のニーズを踏まえた、履修しやすい環境整備に努めることが望ましい。	項目の繰上げ 字句の修正

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
<u>(2) 学生の確保に向けた取組について</u>		新規大項目の設定
<u>ア 高校生の認知度向上を図る取組</u>		新規中項目の設定
○ 県立短期大学は、現在、在校生の約8割が女子学生であり、また、高校生へのアンケートによると、県立短期大学にどのような学科等があるか知っている女子生徒は約9パーセントで、男子生徒は約3パーセントであった。 他公立短期大学においては、県立短期大学の生活科学科（生活科学専攻）で学べる建築デザインについて、これに関連する居住環境コースを中心に男子入学者が増加傾向にあるといった例もあり、<u>県立短期大学の各学科・専攻においてどのような学びが得られるのか</u>、より効果的に周知することにより、高校生全体の認知度向上ひいては男子学生の増加に繋がることも期待される。 効果的な周知において、ネーミングは重要な要素の一つであることから、県立短期大学の学科・専攻の名称の見直しも含め、認知度を高める方策について検討することが望ましい。	<u>(ウ) 男子入学者の増加を目指した取組</u> ○ 県立短期大学は、<u>昭和25年に男女共学化されたが</u>、現在、在学生の約8割が女子学生であり、また、高校生へのアンケートによると、県立短期大学にどのような学科等があるか知っている女子生徒は約9パーセントで、男子生徒は約3パーセントであった。 ○ 他公立短期大学においては、県立短期大学の生活科学科（生活科学専攻）学べる建築デザインについて、これに関連する居住環境コースを中心に男子入学者が増加傾向にあるといった例もあり、<u>県立短期大学の学科・専攻においてどのような学びが得られるのか</u>、より効果的に周知することにより、高校生全体の認知度向上ひいては男子学生の増加に繋がることも期待される。 ○ 効果的な周知において、ネーミングは重要な要素の一つであることから、県立短期大学の学科・専攻の名称の見直しも含め、認知度を高める方策について検討することが望ましい。	記載箇所の変更 項目名の削除 文言の削除・修正
○ 外国人労働者やインバウンドの増加等により、外国語による「コミュニケーション力」及び「情報を伝える力」に加え、産業界等においては、外国語を理解した上で、<u>外国人労働者に対して「日本語教育ができる力」も</u>、今後ますます重視されることが想定される。 このことを踏まえ、文学科においては、「発信力」や「コミュニケーション力」を重視した教育内容の更なる充実を図るとともに、これらを対外的に示すため、「コミュニケーション」をキーワードとした学科名称等の見直しについても検討することが望ましい。【再掲】	<u>(イ) 文学科における教育内容の見直し</u> ○ 外国人労働者やインバウンドの増加等により、外国語による「コミュニケーション力」及び「情報を伝える力」に加え、産業界等においては、外国語を理解した上で「日本語教育もできる力」が、今後ますます重視されることが想定される。 ○ このことを踏まえ、文学科においては、「発信力」や「コミュニケーション力」を重視した教育内容の更なる充実を図るとともに、これらを対外的に示すため、「コミュニケーション」をキーワードとした学科名称等の見直しについても検討することが望ましい。	再掲による追加 文言の追加・字句の修正

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
○ 県立短期大学においては、現在、高校生を対象に、オープンキャンパス、ミニ講座及び出張講義の開催のほか、近隣小学校の校外学習の受入れ等を行っているが、高校生へのアンケートでは、「県立短期大学を知っている」又は「どのような学科等があるか知っている」と回答した生徒が約6割であったことから、こうした取組を<u>更に充実させるとともに、各種媒体を活用し積極的にPRするなど認知度を高め、<u>高校生の県立短期大学への関心と理解を深めることが望ましい。</u></u>	(2) 地域社会への一層の貢献について ○ 県立短期大学においては、現在、高校生を対象に、オープンキャンパスミニ講座及び出張講義の開催のほか、近隣小学校の校外学習の受入れ等を行っているが、高校生へのアンケートでは、「県立短期大学を知っている」又は「どのような学科等があるか知っている」と回答した生徒が6割であったことから、こうした取組を積極的にPRするなど認知度を高め、<u>同学への関心と理解を深めることが望ましい。</u>	記載箇所の変更 字句の修正 文言の追加・修正
<u>○ 高校生が「県立短期大学で学べば、鹿児島でどのような仕事に就け、どのような活躍ができるか」というイメージが持てるような情報発信をしていくことが望ましい。</u>		新規追加
イ 定員等の見直し ○ 定員については、既存学科の教育内容等の見直しを踏まえ、基本的には収容定員の総数を維持しながら、必要に応じて配分を検討することが望ましい。 ○ 第二部については、仕事をしながら学びの機会を得る貴重な場であることから、現行の収容定員を維持するとともに、入学者の増加に努めることが望ましい。	イ 定員等の見直し ○ 定員については、既存学科の教育内容等の見直しを踏まえ、基本的には収容定員の総数を維持しながら、必要に応じて配分を検討することが望ましい。 ○ 第二部については、仕事をしながら学びの機会を得る貴重な場であることから、現行の収容定員を維持するとともに、入学者の増加に努めることが望ましい。	変更なし
<u>ウ 入学者選抜方法の見直し</u> <u>○ 県内の高校で、探究学習や課題研究の時間等のカリキュラムを充実させていることを踏まえ、入学志願者本人の記載する資料を積極的に活用できる「総合型選抜」の導入を検討するとともに、選抜方法ごとの募集人員、試験日程の見直し等について検討することが望ましい。</u>		新規中項目の設定 新規追加

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
(3) <u>企業・大学等との連携や地域社会への一層の貢献について</u>	(2) <u>地域社会への一層の貢献について</u>	項目番号の変更 文言の追加
	○ <u>県立短期大学においては、現在、高校生を対象に、オープンキャンパス、ミニ講座及び出張講義の開催のほか、近隣小学校の校外学習の受入れ等を行っているが、高校生へのアンケートでは、「県立短期大学を知っている」又は「どのような学科等があるか知っている」と回答した生徒が6割であったことから、こうした取組を積極的にPRするなど認知度を高め、同学への関心と理解を深めることが望ましい。</u>	記載箇所の変更 →(2) ア 高校生の認知度向上を図る取組へ
○ <u>在校生の学びの機会が充実するとともに、企業等への就職や四年制大学への編入など、進路選択肢が広がる効果も期待できることから、企業・大学等との連携の機会を増やすことが望ましい。</u> <u>また、そのために、企業・大学等に対して、県立短期大学の魅力や取組等について、積極的にPRをしていくことが望ましい。</u>	○ 学生の学びの機会が充実するとともに、進路選択肢が広がる効果も期待できることから、 <u>企業等や他大学との連携の機会を増やすことが望ましい。</u>	文言の修正・追加 新規追加
○ <u>県立短期大学の限られた資源の中で、時代の要請に対応した教育内容を充実させていくためには、企業・大学等とのつながりを深め、企業・大学等が有する人やモノなどの資源を活用することが望ましい。</u>		新規追加
○ 本県の観光を始めとする地域振興に資する人材を育てるという観点からも、 <u>企業・大学等と連携した取組やフィールドワーク等により、鹿児島県の地理・歴史・文化などを学び、地域への愛着を育む教育を更に充実していくことが望ましい。【再掲】</u>	(エ) 鹿児島への愛着を育む教育の充実 ○ 本県の観光を始めとする地域振興に資する人材を育てるという観点からも、フィールドワーク等により、鹿児島県の地理・歴史・文化などを学び、地域への愛着を育む教育を充実していくことが望ましい。	再掲による追加 文言の追加
○ 地域との連携については、地域社会への貢献の観点から、地域の課題を学生が解決すべきテーマとして捉え、地域住民と一緒に課題について考えていく取組を行うことが望ましい。	○ 地域との連携については、地域社会への貢献の観点から、地域の課題を学生が解決すべきテーマとして捉え、地域住民と一緒に課題について考えていく取組を行うことが望ましい。	変更なし
○ 産業界等へのアンケートによると、県立短期大学におけるリカレント教育について、コミュニケーションといった人間力やパソコン操作などのスキルの向上に関する教育を希望する意見が見られたことから、これらのニーズを踏まえたリカレント教育を提供していくことが望ましい。【再掲】	○ <u>また、産業界等へのアンケートによると、県立短期大学におけるリカレント教育について、コミュニケーションといった人間力やパソコン操作などのスキルの向上に関する教育を希望する意見が見られたことから、これらのニーズを踏まえたリカレント教育を提供していくことが望ましい。【再掲】</u>	字句の削除
○ リカレント教育をより充実したものとするために、 <u>企業等との連携やサテライト教室</u> の設置、長期履修制度の導入などについて検討を行うなど、社会人のニーズを踏まえた、履修しやすい環境整備に努めることが望ましい。【再掲】	○ さらに、リカレント教育をより充実したものとするために、 <u>産業界等との連携やサテライトエリア</u> の設置、長期履修制度の導入などについて検討を行うなど、社会人のニーズを踏まえた、履修しやすい環境整備に努めることが望ましい。【再掲】	字句の削除・修正

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
<u>(4)</u> 独立行政法人化について ア 独立行政法人化の現状 ○ 地方公共団体等における「大学改革」への取組として、地方独立行政法人法（平成15年7月成立）において、「公立大学法人制度」が創設された（平成16年4月施行）。 ○ 公立大学法人制度の導入については、一般的に、理事長（学長）を中心とした迅速な意思決定や外部の専門家の意見を取り入れることによる運営面の透明性の向上等のメリットがあるといわれている一方、必要となる諸規程の整備やシステム等の導入のための事務負担や経費負担の増加などが課題ともいわれているところである。 ○ 令和6年3月末時点で、全国には14の公立短期大学があり、うち8つは独立行政法人となっており、そのうち7つは四年制大学が併設された公立短期大学である。残る1つは専攻科が設置された公立短期大学であり、短期大学単体での独立行政法人化についてはこれまで前例がないところである。 イ 県立短期大学における独立行政法人化について ○ 著しい環境変化に柔軟に対応するには、独立行政法人化は一つの手段として考えられるが、県立短期大学で独立行政法人化した場合の採算性や必要人員等について、現時点で目安となるものがない状況にある。 ○ このことから、県立短期大学に同制度を導入することによるメリット・デメリットについて、県において、具体的な検討・検証を行った上で、独立行政法人化の是非について丁寧に整理することが望ましい。	<u>(3)</u> 独立行政法人化について ア 独立行政法人化の現状 ○ 地方公共団体等における「大学改革」への取組として、地方独立行政法人法（平成15年7月成立）において、「公立大学法人制度」が創設された（平成16年4月施行）。 ○ 公立大学法人制度の導入については、一般的に、理事長（学長）を中心とした迅速な意思決定や外部の専門家の意見を取り入れることによる運営面の透明性の向上等のメリットがあるといわれている一方、必要となる諸規程の整備やシステム等の導入のための事務負担や経費負担の増加などの<u>デメリット</u>もいわれているところである。 ○ 令和6年3月末時点で、全国には14の公立短期大学があり、うち8つは独立行政法人となっており、そのうち7つは四年制大学が併設された公立短期大学である。残る1つは専攻科が設置された公立短期大学であり、短期大学単体での独立行政法人化についてはこれまで前例がないところである。 イ 県立短期大学における独立行政法人化について ○ 著しい環境変化に柔軟に対応するには、独立行政法人化は一つの手段として考えられるが、県立短期大学で独立行政法人化した場合の採算性や必要人員等について、現時点で目安となるものがない状況にある。 ○ このことから、県立短期大学に同制度を導入することによるメリット・デメリットについて、県において、具体的な検討・検証を行った上で、独立行政法人化の是非について丁寧に整理することが望ましい。	項目番号の変更 変更なし 字句の修正 変更なし

提言書（案）	提言書（素案）	備考・説明
<u>おわりに</u> <u>本委員会では、魅力ある県立短期大学づくりのために、検討を重ねてきました。</u> <u>本委員会が県立短期大学の在校生を対象に行ったアンケートによると、県立短期大学に進学した理由として、学びたい内容の科目があることや経済的な負担が少ないと回答した方が多かったところです。</u> <u>また、定員に対する充足率が高い中で、県内からの入学者も多く、さらに、夜間課程の第二部商経学科には、社会人をはじめとした多様な人々が入学しているところです。</u> <u>在校生は自らの目標に向かって充実した学生生活を送っており、学生自身の質の高さも県立短期大学のポテンシャルの一つであり、今後の鹿児島県の将来を担う若者として強い期待を抱いたところです。</u> <u>さらに、人材不足が地域の課題とされるなか、卒業生の多くは、県内の各産業界で活躍されています。</u> <u>このように、県立短期大学は、豊かな教養と職業又は实际生活に必要な能力を有する人材を育成し、もって地域社会に寄与するという本来の役割を果たしていることから、今後も引き続き、県立の短期大学として、現在有している資源を最大限活用し、地域社会に貢献することが期待されます。</u> <u>一方、今後、少子化の更なる加速が見込まれることから、将来にむけて魅力ある県立短期大学にしていくためには、時代の要請に対応した教育内容を更に充実させるとともに、学生の確保に向けた取組や企業・大学等との連携による地域社会への一層の貢献等が必要になると考えています。</u> <u>今後、本提言を活かして、鹿児島県と県立短期大学において具体的に検討し、魅力ある県立短期大学づくりに向けて取り組まれることを期待します。</u>		新規追加
<u>参考資料</u> <u>魅力ある県立短期大学づくり検討委員会設置要綱</u> （略） <u>魅力ある県立短期大学づくり検討委員会委員名簿</u> （略） <u>魅力ある県立短期大学づくり検討委員会の検討経過</u> （略）		新規追加